

令和3年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)と課題

山形県立山形西高等学校

1 教育目標

本校は「嚶鳴精神」を基本的な信条としながら、次の目標を掲げて教育に当たる。

- | | |
|---------------------------------|-----------|
| (1) 真理を愛し、正しく判断する知性を養う。 | <知性を育てる> |
| (2) 自律的に思考し、責任をもって行動する態度を身につける。 | <徳性を育てる> |
| (3) 明るく清純な資質と、創造力ゆたかな個性を伸ばす。 | <個性を育てる> |
| (4) 健康なからだ、やさしく思いやりのあるところを育てる。 | <体と心を育てる> |

2 本年度の重点目標

西高の志教育～ 思いやりと志を持って山形が大好きな西高生を育てる

- 恕の教育 : 他人の立場に立って考えることのできる思いやりを持った生徒
- 志の教育 : 自分の夢を追うことが社会貢献につながるよう目指す生徒
- 郷土愛を育む教育 : 山形にいても山形を離れても常に郷土への愛を抱き続ける生徒

3 前年度(令和2年度)の成果と課題

(1) 成果

- 1 校務運営、探究、授業改善に係る3回の校内研修、及び授業改善に係る授業参観を実施した。
- 2 西高リケジョ・プロジェクト : 東北大学や山形大学と連携し理系進学のカリヤデザイン設計を支援した。
- 3 新型コロナウイルス感染症対策についての指導を継続し、感染拡大を抑えた。また、コロナ下における部活動及びボランティアを工夫して実施した。

(2) 課題

- 1 社会に求められる資質・能力を身に付けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- 2 探究的な学びの推進とキャリア教育について更に研究を深める
- 3 ICT活用能力の向上と効果的な授業展開のための研修

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	教職 評価 結果	学校関係者評価委員の 意見・要望
学校経営	○地域に開かれた、信頼される学校づくりに努める。	①教育目標・重点目標達成に向け、教職員全員が具体的な行動目標を立てて実践している。 ②分掌間、年次間の連携と協力体制が図られ、機能的に校務処理がなされている。 ③日課や週日程の調和がとれ、ゆとりある学校運営がなされている。	B	・校務総括会議（12月）において、今年度の成果と課題についての総括及び育てたい生徒像についての討議を行い、多面的に捉えて意見交換をした。 ・各行事の運営では、分掌、年次との連携を取り、コロナ感染防止対策を入念に行って無事開催することができた。	・本校において育てたい生徒像を明確にし、グランドデザインやスクールポリシーに明示していく。 ・校務分掌の人員配置を変更し、分掌主導による業務運営を進めることで、業務の蓄積化及び効率化を目指す。	B	・本校の在り方の検討と、生徒が入学・卒業に満足するような学校運営を望む。 ・コロナ禍でイレギュラーな対応を迫られる中、教員の負担が増える。ゆとりある学校運営が実現できるよう見直しが必要である。 ・教員の意見をどのようにくみ取るか、検討を要する。
教育課程・学習指導	○授業改善と確かな学力の育成に努め、本校教育の質的向上を図る。	①教育目標や重点目標の達成を目指し、バランスの良い教育課程を作成し実践している ②校内で指導法の研究が随時行われ、授業の改善によって生徒の主体的に学ぶ意欲を喚起している。 ③課題等の分量は適切であり、家庭学習の習慣化に役立っている。学習時間は1日平均（年次＋2時間）を目指す。 ④個別指導等が積極的に行われ、生徒の学習意欲の向上に資している。	B	・臨時休校・自宅待機期間には、オンライン授業を計画的に実施し、授業時数を確保できた。 ・e-教務の導入により業務が迅速化された面があれば、逆に手間になった面もある。 ・授業参観 WEEK と授業参観 DAY を実施した。また、「デザイン思考」「観点別評価」「Google for Education」「授業改善」の4回の研修会を実施した。 ・学習時間調査は、1年次3回、2年次2回実施し、個人面談で活用した。1日平均は、1年次3時間23分（12月）、2年次4時間2分（11月）であった。授業評価アンケート結果は教科内で分析し、指導に活用した。	・学力の定着・向上に向けて現状を分析し、学校全体として取り組む必要がある。 ・e-教務については改善を進め、さらに業務を削減できるよう努める。 ・生徒1人1端末の円滑な使用について準備を進めるとともに、校内ICT機器・環境の総括的な整理と活用しやすい条件整備を進める。 ・総合的な探究の時間の円滑な運営と、生徒に対しての効果的な支援体制を確立する。	B	・生徒自らが課題を見出し、考え探究し、実践できるような仕組みづくりを望む。 ・他進学校と比較すると、さらなる厳しさが必要ではないかと考える。 ・西高ダイアリーの見直しを提案する。生徒にとって一番必要なことについての議論が必要である。 ・授業評価アンケートにてICT活用事例（アプリ活用、クラスルームへの板書掲示など）が評価されていたが、とても良いと感じた。

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	教職 評価	学校関係者評価委員の 意見・要望
生徒指導 ・ 保健指導	○豊かな人間性と社会性、コミュニケーション力を育成する。 ○生徒・教職員の心身の健康を推進する。	①全職員の共通理解のもと、計画的に生徒指導が行われている ②「いじめ」や「体罰」の未然防止に努めた適切な対応がなされている。 ③生徒が達成感・成就感が持てるような部活動指導が行われている。 ④社会性の育成のために社会体験やボランティア活動への参加を奨励している。 ⑤健康に関する情報提供や健康観察が適切に行われている。 ⑥不登校生徒への対応が適切に行われている。	B	・校友会においてルールメイキングプロジェクトを立ち上げ、活動を継続した。スラックス導入にも貢献した。 ・登下校時の自転車での事故が複数発生した。 ・コロナ下における校友会行事や部活動は、内容の刷新、活動の工夫により実施できた。 ・コロナ下におけるボランティア活動は、地域ボランティアの「あいらぶ末広」の活動はできなかったが、雪はきボランティアは実施できた。 ・教室のエアコン設置に伴い、夏の教室環境は良くなった。授業中の暑さによる体調不良生徒が発生しなかった。 ・不登校傾向生徒についてはサポート委員会と教務課が連携しながら早期から情報共有して対応できた。	・行事等ではアフターコロナにおける新しい基準の確立に向け、さらなる精査を進める。 ・特に新生生に対する交通安全指導が必要である。 ・SNS等の使用に関する情報モラル教育は継続して指導する必要がある。 ・特別教室等のエアコン設置に向けて取組みが必要である。また、業者による床ワックスがけ・トイレ清掃について検討を要する。 ・不登校傾向生徒に対する早期対応について、職員研修が必要である。	B	・生徒アンケートからも分かるが、いじめがなく人間関係が良好であることは本校の良いところである。今後も職員による見守りを期待する。 ・いじめる人は心が病んでいる、との見方がある。いじめた側、いじめられた側双方の心のケアをしてもらいたい。 ・コロナのために社会体験やボランティアに参加できない場合、どうするのが生徒にとって大切か考えてみることも必要だと思う。 ・雪はきボランティアに協力してもらって感謝する。地域ボランティアは、学校生活に無理のないように継続することを期待する。
進路指導 ・ 読書指導	○本校に対する社会的な期待と信頼に応え、伝統ある県内有数の進学校として進路指導の充実を図る。	①個に応じた相談活動が行われ、目的意識を確立させることができている。 ②生徒・保護者に対して適切な進路情報が提供され、有効に活用されている	B	・高校生のための学びの基礎診断や外部模試の事後指導を計画的に行った。 ・社会人講話やセミナーの開催、外部講座への参加などを、時期を考慮しながら効果的に配し、生徒の進路研究を促した。	・来年度からの教育課程の変更にあわせて、本校生に合った学習指導・進路指導の在り方を研究する必要がある。その指針となる進路指導計画を検討する必要がある。	B	・県全体の傾向かもしれないが、難関大への入学者が減少していることが残念である。 ・難関大を目指す生徒の動機付け、生徒自ら学習する環境づくりが必要であると考えます。

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	教職 評価	学校関係者評価委員の 意見・要望
進路 指導 ・ 読書 指導	(○本校に対する社会的な期待と信頼に応え、伝統ある県内有数の進学校として進路指導の充実を図る。)	③年次・教科との連携のもと、3年間を見通した進路指導体制ができています。国公立大学合格者数は在籍の65%、難関国公立大合格者数は10%を目指す。 ④情報交換等を通して高大の連携が深められている。 ⑤読書感想文などの各種コンクールへの応募に積極的に取り組んでいる。	B	・国公立大合格者数は59%、難関国公立大合格者は1.5%であり、目標には到達しなかった。 ・西高リケジョ・プロジェクトとして山形大理学部訪問及び東北大研究室オンライン交流、高大連携として東北大出張講義を実施した。生徒の刺激とすることができた。 ・探究型学習では、多くの生徒がSDGsや地域課題の解決に向けたテーマで研究を進めた。探究型学習課題研究発表会を2月に実施し、外部講師からの講評を得て、生徒の学びが深まった。	・学校としての上位集団の育成指導、及びその集団の定義を明確にする必要がある。 ・大学入試の情報収集、先進校の研究を進める必要がある。 ・推薦入試活用に向けては、体系的な指導体制の構築が必要である。また、生徒・保護者・職員に対して制度の周知を進める。	B	・教育課程を含め、2次試験対策を見据えた指導が必要である。 ・コンクールへの挑戦もしていることは素晴らしいが、職員、生徒の負担になっていないか、検証が必要ではないか。
総務 ・ その他	○嚶鳴後援会、嚶鳴同窓会、嚶鳴PTA等関係団体との連携を推進する。 ○安全教育・防災教育を推進する。	①PTA・後援会・同窓会等と密接な連携がなされ、円滑に運営されている。 ②防災訓練や安全教育が計画的に行われている。	B	①PTA総会は開催できなかったが、コロナ対策を入念に行いながら評議委員会を開催することができた。 ②避難訓練を2回実施した。	・嚶鳴PTAの活動の充実について検討する。	B	・コロナ下での活動を考える必要がある。 ・安全点検を計画に沿って進めてもらいたい。

学校関係者評価 を踏まえた改善点	1 社会に求められる資質・能力を身に付けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 2 生徒自らが学習するような環境づくりと進学校としての組織的な進路指導体制の構築 3 生徒1人1台端末活用に対応するICT活用能力の向上と効果的な授業展開のための研修 4 コロナ下における生徒の社会体験、ボランティア活動及びPTA活動の在り方の検討
---------------------	---